

●メイクアップ アドバンス プロジェクト実証講座参加募集のお知らせ (大阪開催用)

- ・本プロジェクトは文部科学省の委託研究事業の平成26年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業に採択されたものです(代表校東京ビジュアルアーツ。事業概要は別紙フローチャート参照、事業実施期間は平成26年7月1日より平成27年2月28日です)。
- ・本プロジェクトは成長分野であるメイクアップ分野の中核的専門人材養成のための実践的カリキュラムの開発を目的としています。そのために、エアブラシメイク(ビューティやアート、カバーメイク)や特殊メイク、死化粧などメイク分野の新技术の導入と応用を理論および技術について体系的にまとめ、その実証のための講座を開催します。・平成26年5月より8月かけ、プロジェクト運営委員会によってメイクアップアドバンスプログラムの試案ができ、9月より翌2月までに、1クール6回に渡り実証講義を行うことになりました(東京地区5クール、大阪地区1クール)。
- ・本プロジェクトの実証講座のとりまとめは委員会参加企業のマリブTEMPTUが行っています。

○**受講対象者**：本プロジェクトは産学連携プログラムであり、実証講座の対象者は学校法人の専門学校、短期大学、大学の先生(非常勤講師可)および会社・団体等のメイクアップ関連担当者や会社・団体等に所属するメイクアップアーティストなどです。

○**受講料**：無料(文部科学省委託研究の実証講座のため受講料は無料です。)

○**場所**：大阪デザイナー専門学校(最寄駅大阪駅：大阪府大阪市北区堂島2-3-20)

○**時間**：10:00より17:00(昼休憩あり)・原則ステップ1から6の受講が条件

○**実証講座日程・内容**：ステップ毎に内容が異なります。

(日程及び詳細は次頁のシラバスを参照)

ステップ1 11月1日(土)：エアブラシメイク基礎

ステップ2 11月2日(日)：エアブラシメイク(アート、カバーメイク)

ステップ3 12月20日(土)：エアブラシメイク(ビューティメイク)

ステップ4 12月21日(日)：死化粧

ステップ5 1月17日(土)：特殊メイク(傷、打撲、怪我、ゾンビメイク)

ステップ6 1月18日(日)：特殊メイク(アプライアンス装着)

・エアブラシ機器、インク、ファンデーション等材料はすべてこちらで用意します。

・自宅での練習や課題等があり、機械をお持ちでない場合は貸し出します(無料)。

○コース生(6回必須)募集

・実証講座のうち最終的にステップ1からステップ6を受講することが参加の条件です。(但し、ステップ1については基礎を修得している場合は受講する必要はありません。)

○1日聴講生募集。

・日程等ですべてに参加できない方や興味ある分野のみの1日の受講です。

○参加申込について：FAX申込のみです。

・コース生(6回必須)または1日聴講生かを選択し必要事項を記入し申し込みください。

・申込書はプロジェクトホームページよりダウンロードできます。

<http://www.tva.ac.jp/airbrushPJT/>

・定員がありますので、定員になり次第予約締め切りになります。

実証講座内容(シラバス)

メイクアップ アドバンスプロジェクトでは 6 回に渡り以下の講座をおこないます。

○エアブラシメイクアップについて

エアブラシの導入のためのプログラムは平成 22 年度基盤的人事育成プログラムによってエアブラシメイクアッププロジェクトとして採択され、プログラム開発および実践的講義を行い、多くの学校に導入されてきました。本プロジェクトは中核的専門人材の養成を目的とするが、多くの教員、現役美容師、メイクアップアーティストは未だに、エアブラシメイクアップについて、知識不足である。また、より理解を深めるために、最初に開発されたベーシックプログラム(ステップ 1)を行い、体系的に理解できるようにする。

2日目(ステップ2)以降は、エアブラシとその他新技術の応用とを行い、中核的専門人材のための技術・理論修得を目指す。

ステップ 1: エアブラシメイク基礎



・理論面

- 1、エアブラシの特性、構造、分解、組立、掃除等の理解。
エアの流れや構造などを理解し、エアブラシの特性を理解する。
不具合に対処でき、どんな状況でも使用できるようになる
- 2、インク等/ファンデーションの特性
身体や顔に吹付けるため害のないものを使用することを徹底させる。
ファンデーション/インクは成分により発色や用途、掃除液などが異なり、
各々の特性を理解し、使用環境やクオリティを勘案した材料選択の必要性を理解する。
- 3、光の理論や肌のカラー理論の理解。



・技術面

- 1、エアブラシ機器の説明と操作
機械のため雑に扱うと故障の原因となるため。分解、組立、掃除等を行う。
- 2、インク、ファンデーションの特性を理解した上で、実際に使用し、違いを確認する。
- 3、吹付け演習: いろいろな技法を学び、演習する。
 - ① ○、□、直線、グラデーションの吹付け練習で基礎的な動作を学ぶ。
 - ② エアブラシでメイク、ボディアート、特殊メイクでの動きをするために必要な練習方法の修得
 - ③ エアブラシ(ハンドピース)掃除。詰まりや凝固を防ぐため毎回のメンテナンス(掃除)が必要。エアブラシの掃除、分解、組立て。
- 4、次回までの課題(提出物あり)
 - ① 基礎動作および吹付けの練習を次回までに修得する。
 - ② 直線の練習を活かしてA4用紙に自身の名前を書いてくる。
 - ③ 課題(A4用紙に○、□、直線、グラデーションの吹付け)を提出。
 - ④ ステンシル用のデザイン(好きなの)を考え、次回までにレースステンシルを製作する。(製作は、練習会会場のTEMPU代々木店 2Fです。製作時間がない場合はデータを送付してください。)

ステップ2: エアープラシメイク(アート、カバーメイク)



3



・理論面

- 1、エアープラシの特性は、薄膜とグラデーションにある。レイヤーとグラデーションおよびスパッタリングによる画像構成を修得。
- 2、カバーメイク等で必要なニュートライズと肌質の演出について学習する。
- 3、陰影やシェイプによる見え方等について学習する。

・技術面

1、グラデーションの演習

自宅演習を経て、エアープラシの特徴であるグラデーションの繊細さを修得
用紙を○に切り球体を描く、グラデーションを練習することでメイクの陰影技術を修得。

2、タトゥーペイント、ボディアートの演習

タトゥーシートやレースステンシルを使用してボディアートを完成させる。ステンシルの構造の理解と、様々な色を利用し、アートの吹付けの感覚を身につける。

3、タトゥーカバー演習

ステンシルアートをタトゥーに見立てカバーしていく。実需の多いカバーメイクを修得する。
ニュートライズや肌質演出の理論に基づき演習する。ペイントおよびエアープラシの両方で行う。

4、ビューティメイク演習

- ① チーク・アイシャドウ・アイブロウ演習:アイシャドウ用ステンシルを作成し、顔の用紙に吹付け演習。
- ② ファンデーション、カントア演習:陰影や輪郭によるフェイスの調整と均一塗布の演習。顔の用紙に吹付け演習。

5、次回までの課題(提出物あり)

- ① グラデーション等の吹付けの練習を次回までに修得する。
- ② タトゥーアートのカラーリング写真提出。
- ③ タトゥーカバーを練習する。ビフォー・アフター写真の提出。
- ④ 顔の用紙に、メイクイメージ画を作成、提出する。
テーマごとに作成する(次回演習でイメージ画をもとにメイクを行うため)。

ステップ 3: エアープラシメイク(ビューティメイク)



・理論面

- 1、メイクアップ理論に従ってエアープラシの特性を理解しながらエアープラシメイクアップ手順を学ぶ。
- 2、修正やタッチアップについて学ぶ。
- 3、エアープラシとハンドアプライの特性を理解し、どのような施術が良いかを学ぶ。

・技術面

- 1、相モデルでの演習
相モデルでフルメイクを行う。交互に数回行う。写真取り。
前回課題のイメージ画をもとにメイクする。
相手方のイメージ画をもとにメイクする(他人の支持に従ってメイクすることが重要なため、自らのイメージだけでなく、他のイメージ画でのメイクを練習する。)
- 2、ボディーペインティングのデモンストレーション
実証講座講師による、簡単なボディーペインティングのデモをおこなう。
- 3、次回までの課題(提出物あり)
ビューティやアートの作品を写真で提出。

○死化粧について

生体反応のない死体への化粧は、通常のメイクとは全く異なる対応が必要である。特に死後に生体反応がないために、肌は変色をおこし、化粧のためのベースの製作が必要となる。しかし、近年エアブラシ技術の発達によって、ベース製作の必要なく、化粧することができるようになった。また、エアブラシの普及が遅れているために、従来のハンドアプライでの死化粧も多く行われているが、多くのメイクさんは死化粧を施術したことが無く、理論修得が必要である。ハンドアプライにおいては、通常のメイクと技術的な違いはあまりないが、生体と異なり、肌の反発や劣化(腐敗を含む)などで、物理的にも変性しており、その対処が必要である。震災等では、遺体の損傷や腐敗等も激しく、触ることもできないこともあった。新技術であるエアブラシは遺体にさわることなく、薄膜できれいにカバーすることができ対応することができる。また、衛生面においても安全である。また、近年、核家族化と少子化によって、葬儀が質素に行われる傾向にあり、死化粧に係るコスト低減が求められている。そのため、高コストの専門死化粧師によるのではなく、ビューティ系メイクさんや葬儀社の社員による死化粧への対応が求められている。

5

ステップ 4: 死化粧



・理論面

- 1、生体との違い、ご遺体の変化を理論的に把握
(体温の低下～死後硬直～死斑～顔色の変化～皮膚や粘膜の乾燥)
- 2、状況観察と感染防御の為の処置と化粧前の準備。
(感染防御対策)

・技術面

- 1、ハンドアプライによる死化粧のデモンストレーション。
- 2、エアブラシによる死化粧のデモンストレーション
 - ① うっ血や変色等の軽度修復方法
 - ② ご遺体状況別により必要機材の有用性及び材料特性の説明
 - ③ 生体メイクと異なり、衛生面の管理が重要な為生体との違いを習得
- 3、相モデルでの演習
状況をイメージしてのメイクアップ(通常・状況変化別によるメイク手法)
* タトゥカバーなどのカバーメイクと技法が似ている為、カバーメイクの練習になる。
- 4、次回までの課題(提出物あり)
自宅練習。カバーメイクと技法が似ているため、カバーメイクの練習にもなる。

○特殊メイクについて

特殊メイクは分野が広く、特殊メイクだけで 1 分野を形成するが、メイク現場において、ビューティだけでなく、簡単なアグリーメイクを要求されることが多く、特殊メイク導入編として、最低限の知識と技術修得を目的とする。造形等を必要とするより高度なFXメイクは来年度に行う。

ステップ 5: 特殊メイク(傷、打撲、怪我、ゾンビメイク)



・理論面

- 1、怪我や傷、打撲などの分類と時系列変化
FXメイクの基礎である、切傷、擦り傷、はれ、打撲、痣などを演出するにあたり、それらの種類と時間経過による変化について学ぶ。
- 2、血糊の分類
- 3、材料の特性と選択
ワックス、ラテックス、ゼラチン、シリコーンゴムでの傷等の演出のための材料適性。怪我、傷等の状況により、撮影環境などにより、どの材料を使用するか等の材料選択のための材料特性の知識修得。
- 4、カラーリングや陰影を利用した効果演出の学習。

・技術面

- 1、ペイントでの痣や擦り傷(2次元)
ペイント(筆やスポンジ)での痣や傷の演習。
- 2、モデリング材料を使用した傷等(3次元)
ワックス、ラテックス、ゼラチン、シリコーン等のモデリング材料を使用した傷等の演習。基礎的な使い方から応用編までモデリング材を変更しながら修得。
- 3、ゾンビペイント
ペイント、エアブラシなどを駆使し、2次元および3次元の技法を組み合わせ、ゾンビメイクを演習する。
- 4、次回までの課題(提出物あり)
自宅練習。ペイントやモデリング材料を使用した作品提出(写真)。

ステップ 6: 特殊メイク(アプライアンス装着)



7

・理論面

- 1、アプライアンス装着における必要な理論の修得。動きに合わせた接着部位の選択や材料選択等。
- 2、造形等の過程理解。造形は特にクリエイティブな分野であり、熟練を必要とするために本プロジェクトでは次年度の課題となっている。しかし、中核的専門人材養成ではその製造過程を理解し、説明できる必要がある。そのため、本プロジェクトでは、一連の製作工程を紹介する。汎用アプライアンス製作から個人の型取りから行うアプライアンス製作を紹介する。実演ではなく、使用品等による説明による知識修得。

・技術面

1、デモンストレーション

実証講座講師によるアプライアンス装着デモンストレーション(生徒は見るだけなので、比較的中級や上級のを付ける)。FXメイクを理解するうえで、高度な技術を垣間見ることができ、知見を高める。

2、簡単なアプライアンス装着：相モデルで行う。

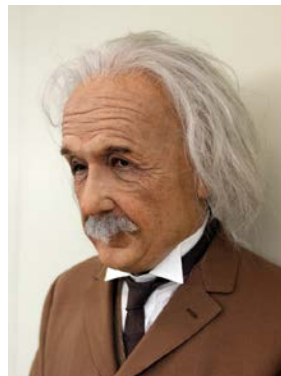
アプライアンス装着は特にリアリティ追求の必要があり、接着部位の選択やエッジ処理や色合わせなど修得。ペイントやエアブラシでカラーリングする。

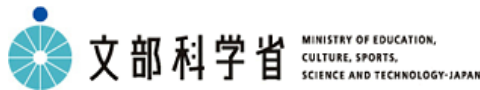
アプライアンスはプロジェクトで用意(受講生用は簡単な小さいもの)。

3、課題(提出物あり)

自宅練習。テーマ自由で作品提出(写真)。

最終日のために、次回講座がないので、でき次第提出してください。





メイクアップ分野における中核的専門人材養成のためのプログラム開発と実証(メイクアップ アドバンス プロジェクト)

メイクアップ アドバンス プロジェクト実証講座
コース生(6回必須)または1日聴講参加申込

申込方法: FAX(申込後、事務局より参加可否について折り返し連絡します。)

プロジェクトホームページ <http://www.tva.ac.jp/airbrushPJT/>

詳細、質問は TEL 052-654-2839 (委員会企業マリブTEMPTU:浅野)まで、または

締切り:定員になり次第、締切ります。(申込受付はFAX先着順)

空きがあれば、前日まで受け付けます(前日および前々日は電話のみ対応 090-3309-6529 浅野)

—————FAX申し込みはこのまま記入しFAXしてください。—————

本プロジェクトの実証講座のとりまとめは委員会参加企業のマリブTEMPTUが行っています。

FAX先 052-654-2818 (委員会企業マリブTEMPTUあて)

大阪開催日程

- ・日程:11月1日(土)11月2日(日)12月20日(土)12月21日(日)1月17日(土)1月18日(日)
- ・時間 10:00より5:00まで(質疑応答で伸びる場合があります。)
- ・場所:大阪デザイナー専門学校(最寄駅大阪駅:大阪府大阪市北区堂島2-3-20)

●実証講座(大阪開催)のコース生(6回必須)または1日聴講参加申込書●

●コース生または1日聴講か選択してください(○で囲む)

1:コース生(6回必須)申込

2: 1日聴講生申込(希望日をお書きください)

聴講希望日

学校・会社・団体名・

申込日:平成 年 月 日

学校・会社・団体住所・電話、FAX

〒 -

参加者名および住所、所属学科、部署、役職、住所、メールアドレス、電話

1:名前

所属部署

住所 〒 -

電話

メール

@

聴講参加の可否の最終決定は事務局よりお知らせします。